

## テモテへの手紙 第二 2:8-13 よみがえられたキリストを心に留めて

復活の日おめでとうございます！……皆さん全員でなくとも、え？と思われた方がいらっしゃると思います。私たちは、復活について考え、そして復活を祝うことは年に一度だけという傾向があります。しかし、教会が日曜日に集まるようになった大きな理由の一つが、復活を祝うためであったことをご存じでしょうか。ですから、現代のクリスチャンが復活を中心的に扱わないことは、少し不思議に思えます。昔のクリスチャンたちが、復活を重く見すぎていたのでしょうか？それとも、私たちが、復活の重要性を忘れてしまったのでしょうか？このメッセージでは、復活がどれだけ重要であるかを、皆さんに示したいと思います。そしてその中で、復活の真実が皆さんの心を打ち、また慰めとなることを願っています。まずは、本日の聖書箇所を読みましょう。座席に備え付けの聖書をお手にとるか、説教原稿をご覧ください。本日の聖書箇所は**テモテへの手紙 第二 2 章 8~13 節**です。**8 イエス・キリストのことを心に留めていなさい。私が伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった方です。<sup>9</sup> この福音のために私は苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばはつながれていません。<sup>10</sup> ですから私はすべてのことを、選ばれた人たちのために耐え忍びます。彼らもまた、キリスト・イエスにある救いを、永遠の栄光とともに受けるようになるためです。<sup>11</sup> 神のことばは真実です。「私たちが、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。<sup>12</sup> 耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となる。キリストを否むなら、キリストもまた、私たちを否まれる。<sup>13</sup> 私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。」**

パウロはこの箇所の冒頭で、手紙の読者に「**イエス・キリストのことを心に留めていなさい。…この方は、…死者の中からよみがえった方です。**」と命じています。この手紙における興味深い点の一つは、パウロが福音について語る際の表現の仕方です。私たちにとって、一般的に、パウロと言えば「義認」の教えの印象がありますが、この手紙の中では義と認められるという表現は一度も使われていません。これは、パウロの福音理解が突然変わったからではありません。そうではなく、この手紙を通して復活の重要性を際立たせようとしているのです。その次に言及しているのは、イエスが「**ダビデの子孫**」であるという点です。ダビデはイスラエルの歴史の中で最も成功し、有名な王です。神が彼と結ばれた契約によっても知られています。**サムエル記第二 7 章 12~13 節**で、神はダビデに、次のように言っています。**わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。**ここで、「**王国の王座をとこしえまでも**」という表現があります。王国が永遠に続くためには、王の系統（あるいは一人の王）が、永遠に死なない、という条件が必要です。では、死に支配されない王国や王が存在するのでしょうか？先に進む前に、ここで一度「死」について考えてみましょう。この世での人生において、最も大きく強い力は「死」です。この世において、死ほど決定的、絶対的、確実なものはありません。死を乗り越えた技術も、薬も、国家も存在しません。ところが、キリストが死者の中からよみがえられたとき、死は打ち負かされました。**使徒の働き 2 章 24 節**に、次のようにあるとおりです。<sup>24</sup> **しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。**この世で最も確実で絶対的であるはずの「死」でさえ、イエスを支配できなかったのです。では、死の鎖から解放されている王国とは何でしょうか。神の王国です。イエスこそが、その神の王国を永遠の王として永遠に治めるダビデの子孫です。イエスが死者からよみがえったこと、復活と、ダビデの子孫であることは、無関係のように思えるかもしれませんが、しかし実際には、この二つは関係があります。復活こそが、イエスが全宇宙の王として王座につくための出来事でした。復活によって、「ダビデの子孫」がとこしえまでもすべてを治める王となられたのです。では、復活はどのようにしてこの勝利を成し遂げたのでしょうか。

**ローマ人への手紙 1 章 3~4 節**で、パウロは次のように述べています。**3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、<sup>4</sup> 聖なる霊によれば、死者の中からの復活に**

より、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。ですから、イエスの復活は、単に死に対する力を証明しただけではありません。復活は、イエスが神の子、すべてを治める永遠のお方であると宣言された出来事でもあるのです。死と世に対するキリストの勝利は、復活によって成し遂げられました。しかしその勝利は、イエスにとってだけのものではありません。私たちにとっての勝利でもあるのです。どうしてでしょうか。11 節から 13 節で、パウロは興味深い表現を使っています。「～なら（～でなくても）…になる（である）」という構文が 4 つ続いています。「～が真実であれば、結果は…である」という構文です。11 節と 12 節には、次のようにあります。「**私たちが、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。**<sup>12</sup> **耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となる。**」ここに「死んだ」「生きる」「王となる」ということばがあります。聞き覚えがないでしょうか。そうです、復活し、王となることです！ここで示されているのは、今日の聖書箇所冒頭のパウロがイエスについて述べた、よみがえった、ダビデの子孫という点です。しかしここで、キリストが成し遂げられたことが、ご自身の民とともに分かち合われていることが書かれています。ローマ人への手紙 6 章 5 節には、次のようにあります。**私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。**復活により、私たちに永遠のいのちと栄光の希望があるのです。そして、愛する人を亡くしたときも、その人がキリストを信じる者であったなら、これは特別な希望です。この地上での人生において再び会えないことを思うと、別れは本当に辛いものです。悲しむのは当然のことです。イエスご自身も、ラザロの死に涙を流されました。イエスはあなたの悲しみを理解しておられます。しかし、イエスはまた、キリストにあって死んだ者は、主と共に生きると約束しておられます。主の復活は、今や私たちの復活でもあるのです。クリスチャンにとって、死は終わりではありません。だからこそ、私たちは別れを悲しみつつも、その別れは短い間であることを喜ぶのです。なぜなら、この地上の人生は、永遠のいのちという無限の現実と比べれば、驚くほど小さなものだからです。そしてその永遠のいのちの中で、過去・現在・未来のすべての信仰者たちが共に、よみがえられたキリストにあって喜び、キリストを永遠に礼拝することになるのです。何と輝かしいことでしょうか。

このように、復活が重要であるのは、イエスが復活によって死に打ち勝ったこと、そしてすべてを治める王として立てられたからです。そしてキリストの勝利を通して、私たちもまた勝利にあずかり、キリストの王国とともに治めることになるのです。次に、「復活が重要だとして、それが今の私の人生にとってどんな意味があるのか？」という問いに答えたいと思います。9 節と 10 節に戻って、その問いにパウロがどのように答えているかを見てみましょう。パウロは、よみがえった王であるイエスの福音をまとめてから、こう続けています。<sup>9</sup> **この福音のために私は苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばはつながれていません。**<sup>10</sup> **ですから私はすべてのことを、選ばれた人たちのために耐え忍びます。彼らもまた、キリスト・イエスにある救いを、永遠の栄光とともに受けるようになるためです。**パウロは、自分がいまつながれている、投獄されているのは、福音のためだと述べています。それからパウロは、「しかし」ということばを用いて、自分の現状と、より大きな真実を対比させています。神のことば、福音は、つながれていないということです。パウロは、自分の状況を見捨ててはいません。パウロは、苦しみを受けていない、鎖につながれていない、というふりをしようとはしていません。むしろ、ボクシングのリングで向かい合う二人の選手のように、あるいはスポーツで対戦中の 2 チーム同士のように、二つの現実をあえて対峙させているのです。そうして対峙させているのは、読者に、二つの現実の間の違いを示すためです。投獄、苦しみ、死——これらはパウロがまさにその時、経験していたか、あるいはこれから経験しようとしていた現実です。しかし、その中でパウロが確信していたことは、彼が直面しているこれらの重い現実も、イエス・キリストの良い知らせ、福音と比べれば全く無力である、ということです。福音はつながれることがないため、パウロは、この福音を世界の危険な場所にも伝える希望と力を持つことができました。パウロは、伝道のゆえに迫害を受けることを知っていました。しかしそれでも、神のことばはどんな苦しみにも勝ることを知っていたので、失われた人々のために福音を伝えるという神のみこころを行うために、すべてに耐えることができました。兄弟姉妹の皆さん、あなたは



ま、どんな苦しみの重荷を背負っていますか？どんな問題があなたを取り囲み、抜け出せないと感じていますか？仕事の困難、経済上、健康上の問題でしょうか、あるいはこの世界の状況でしょうか？ときに、人生があまりにも絶望的に思えるかもしれません。光よりも闇の方が強く感じられるときがあるかもしれません。しかし、クリスチャンである皆さん、忘れないでください。イエス・キリストは死者の中からよみがえり、いまやすべての被造物の上を永遠に支配しておられるのです。これ以上に力強い現実はありません。あなたの苦しみがどれほど重く絶望的に感じられたとしても、その苦しみと、よみがえられたキリストを比べてみてください。あなたの苦しみと、死者の中からよみがえられたイエス・キリスト。どちらのほうが大きいでしょうか。イエスは、いかなる時にも勝利者です。しかし、信じていない人にとってはどうでしょうか。実は、信じていないあなたにとっても、復活は、あることの保証です。ただし、それは信仰者にとってのような慰めではなく、むしろ非常に恐るべきことです。ヨハネの福音書 5 章 22 節、23 節、そして 27～29 節にはこう書かれています：22 また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子に委ねられました。<sup>23</sup> それは、すべての人が、父を敬うのと同じように、子を敬うようになるためです。子を敬わない者は、子を遣わされた父も敬いません。皆さん、もしあなたがキリストを否み続けるなら、キリストもまた、復活においてあなたを否めます。あなたの報いは、地獄です。12 節は、あなたへの警告です。ゆっくり読んで、よく考えてください。「キリストを否むなら、キリストもまた、私たちを否まれる。」では、「キリストを否む」とはどういう意味でしょうか？それは、イエスの復活の真実、そして私たちにそれが必要であるという真実を否定することです。復活の真実を否むとは、イエスが本当に死からよみがえられたという真実、そして今やすべてを支配しておられる、特にあなたの人生をも支配しておられるという真実を否むことです。また、自分にその復活が必要であるという真実を否むとは、すべての人が神に背いたことにより、私たちは皆、罪に定められ、裁きを受けるに値するという真実を拒むことです。それはまた、あなたが受けるべき罪の責めと罰を、イエスがあなたの身代わりとして受けてくださったことの必要性を否定し、さらに、キリストが死からよみがえったことによって、私たちがキリストの勝利にあずかり、罪と罰からの自由を得られるという真実を否定することです。ですから、もうイエスを否むことはやめなければなりません。復活を信じなければなりません。イエスを信じなければなりません。今日、信じてください。

まとめると、キリストは、復活によって死に打ち勝ち、被造物の支配者の座につけられ、また復活によって私たちはこれらの報いにあずかることができる。これが、復活が重要である理由でした。そして復活は、信じる者にとっては慰めと力の保証であり、信じない者にとっては恐ろしいことの保証でもあります。最後に、この質問に答えていきたいと思います。「もし私が失敗者であるなら、復活にどんな希望があるのでしょうか？」11～13 節の、「～なら（～でなくても）…になる（である）」の文に戻りましょう。これらの文は、いくつかの解釈が可能です。第一の解釈は、これらを条件文とみなす読み方です。つまり、報いを受けるには条件や要件があって、それを満たせば報われる、という考え方です。「もしあなたにこれができるなら報いがある、でもできなければ、何も得られない」といった解釈です。私たちの多くが、正直なところ、この一つ目の解釈のように読む傾向があるのではないのでしょうか。特に、「キリストを否む」「私たちが真実でない」といった部分に目が行って、ほかの部分が目に入れなくなってしまうことはないのでしょうか。私たちの多くが、自分の不誠実さや失敗の経験を心に抱えていると思います。ほかの人たちの前では、神こそが私たちを義とし、私たちを信仰の中に保ってください方だと信じていても、心のどこかでは、よく、自分の行動（あるいは行動しなかったこと）が、自分自身、あるいは誰かを神の手の届かないところに追いやってしまったのではと不安になる。このような、もしかしたらという不安が、心の奥底で私たちをむしばんでいきます。「もし、あの罪を何度も繰り返してしまったら？」「もし、自分が信仰を持たない配偶者に、もっと良い夫／妻でいられたら？」「もし、子どもたちがもっと小さいうちにみことばを教え始めていたら？」「もし、あの兄弟姉妹の罪にもっと早く向き合っていたら？」私たちには耐えきれない重荷でしょう。でも、別の読み方を提示したいと思います。これらを確認、あるいは約束として読む第二の解釈です。「これが真実なら、これも真実である」という読み方です。11 節のはじめに戻ると、パウロ

は、「11 次のことばは真実です」と言っています。パウロは、これらが「条件」であるとは言いません。「ことば」である、あるいは英語の訳によってはステートメント、宣言であると言っています。ですから、これらは明らかに条件ではなく、「真実であることば」です。この手紙におけるパウロの意図は、クリスチャンに自分の信仰を疑わせることなく、信仰を強め、励ますことです。この「～なら（～でなくても）…になる（である）」の表現を用いることで、キリストが勝ち取られた復活と王座が、私たちとも分かち合われていることが、確実で、ゆるぎない真実であると示しているのです。「真実+真実=真実」ということです。もしあなたがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きようになります。もしあなたが耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となります。最後の節に注目しましょう。「**私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。**」ここで示されているのは、イエスの誠実さはあなたや私にかかっているのではなく、イエスご自身によるということです。ご自分を否むことができないからです。イエスは、ご自身の御名の栄光を重んじられます。ご自身が受けるべき報いを重んじられます。だからこそ、キリストはご自身の受けるべきものを否むことなどできないのです。キリストの受けるべきものとは、神に選ばれた私たち、わたしたちのいのち、そして私たちの礼拝です。そして、ご自分の報いの報いに対するキリストの熱心のゆえにこそ、私たちの最終的な希望が確約されているのです。私たちの復活という真実は、否むことができません。なぜなら私たちは永遠にキリストのものだからです。そして、キリストはご自身が受けるべき報いを受けます。誠実でない、失敗者たちにとってなんと美しい希望でしょうか。兄弟姉妹の皆さん、最後にもう一度、この一節をご一緒に読み、心に深く刻みましょう。「**私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。**」覚えていてください。その報いは、私たちがそれに値したから与えられるのではありません。キリストが死に打ち勝ち、被造物の王として、その勝利の報いを私たちと分かち合ってくださいからなのです。クリスチャンであるあなたに対するキリストの約束は、封印され、確かに保証されています。キリストはご自身を否むことができないからです。覚えていましょう。そして、喜びましょう。お祈りします。

## 2 Timothy 2:8-13 Remember the Resurrected King

Happy Resurrection Day, everyone! I'm guessing some, if not all of you, are a little confused. We tend to only celebrate, let alone think about, the Resurrection once a year. But did you know that one of the main reasons the church has always gathered on Sundays is to celebrate the Resurrection? So it seems a little strange that the Resurrection has become such an afterthought to modern Christians. Did the Christians of the past put too much emphasis on the Resurrection? Or is it us, who have forgotten the importance of it? Today, I hope to convince you of the latter. And I hope that in doing so, the reality of the Resurrection would amaze, and comfort you. But first, let's read today's text. You can pick up one of the pew Bibles in front of you, or read along in your sermon notes. Today's text is from **2 Timothy 2:8-13**. "8 Remember Jesus Christ, risen from the dead, the offspring of David, as preached in my gospel, 9 for which I am suffering, bound with chains as a criminal. But the word of God is not bound! 10 Therefore I endure everything for the sake of the elect, that they also may obtain the salvation that is in Christ Jesus with eternal glory. 11 The saying is trustworthy, for: If we have died with him, we will also live with him; 12 if we endure, we will also reign with him; if we deny him, he also will deny us; 13 if we are faithless, he remains faithful—for he cannot deny himself."

Paul begins this text by instructing his readers to "**Remember Jesus Christ, risen from the dead...**". An interesting point about this letter is the way in which Paul refers to the gospel throughout it. Generally, we think of Paul as the "justification" guy, but Paul doesn't specifically mention justification at all in this letter. And it's not because Paul's understanding of the gospel has suddenly changed; rather, he is trying to highlight the importance of the Resurrection. The next thing he mentions is that Jesus is the **offspring of David**. David was the most successful and well known king in Israel's history. He is also well known because of the covenant that God made with him. In **2 Samuel 7:12-13**, God says to David, "I will raise up your offspring to succeed you, your own flesh and blood, and I will establish his kingdom. He is the one who will build a house for my Name, and I will establish the throne of his kingdom forever." Notice the term "kingdom forever". The only way that a kingdom can last forever is if the nation's line of kings (or singular king), never dies out. What kind of kingdom or king is free from the hold that death has over it? I think before we move on, it would be helpful for us to consider "death" for a little bit. The greatest, most powerful thing in this life is death. There is nothing more final, more absolute, more guaranteed in this world than death. No technology, medicine, or nation has ever overcome it. But when Christ rose from the dead, death was defeated. In **Acts 2:24** Peter says, "24 God raised him up, loosing the pangs of death, because it was not possible for him to be held by it." So, the most absolute and guaranteed thing in this world, death, could not hold Jesus. So what kingdom is free from the chains of death? God's kingdom. Jesus is the offspring of David who rules over his eternal kingdom as the eternal king. These two seemingly unrelated points of Jesus rising from the dead, and being the descendant of David are actually connected. The event of the Resurrection inaugurates Jesus in his role as the king of the universe. It is how the offspring of David comes to rule over all things forever. But how does the Resurrection accomplish this victory?

In **Romans 1: 3-4**, Paul says, "3 concerning his Son, who was descended from David according to the flesh 4 and was declared to be the Son of God in power according to the Spirit of holiness by his resurrection from the dead, Jesus Christ our Lord,". So, not



only does the resurrection of Jesus prove his power over death, but it is how he was declared to be the Son of God; the Eternal One who rules over all things. Christ's victory over death and the world is accomplished through his rising from the dead. But not only was it a victory for Jesus, but it is also our victory. How so? In verses 11 through 13, Paul uses this interesting formula. It's these 4 "If—will" statements. If—will. If—will. If—will. So, "If this is true, this will be the result". Verses 11 and 12 say, "11 If we have died with him, we will also live with him; 12 if we endure, we will also reign with him". Notice the words "died" and "live", and also "reign". What does that sound like? Yes! Resurrection and rule! That first point that Paul mentioned about Jesus, the risen, offspring of David, at the beginning of this text is in mind here. But notice, that this time, what Christ accomplished is now shared with his people. Romans 6:5 says, "For if we have been united with him in a death like his, we shall certainly be united with him in a resurrection like his." Our hope of eternal life and glory are ours because of the Resurrection, as well. And that is a special hope for those who lose a loved one, but that loved one was in Christ. It is hard to say goodbye knowing that we will not see them again in this life. And it's okay to feel sad; Jesus, Himself, wept for Lazarus. He understands your grief. But Jesus also promises that those who have died in Christ, will live with Him. His resurrection is now our resurrection. Death is not the end for Christians. And so, we're sad to say goodbye; but we rejoice knowing that those goodbyes will be short-lived. For this life is so incredibly small, compared to the infinite reality of eternal life, where all of us; past, present, and future believers, will together glory in and worship the Risen Christ forever. How glorious is that?

So, the reason the Resurrection is important is because it was the way in which Jesus won victory over death, and was set as ruler of all things. And through Christ's victory, we too receive victory and rule in his kingdom. **Next, I want to answer the question**, "If the Resurrection is important, what relevance does it have on my life, now?" To do so, let's jump back a bit to verses 9 and 10, and see how Paul answered this question. After summarizing his gospel with Jesus, the resurrected king, Paul continues "9 for which I am suffering, bound with chains as a criminal. But the word of God is not bound! 10 Therefore I endure everything for the sake of the elect, that they also may obtain the salvation that is in Christ Jesus with eternal glory." So, Paul says that the reason he is now imprisoned is because of the gospel. Paul then uses the word "but", to contrast his situation with the far greater reality; and that is, that the word of God, the gospel, is not bound! Notice that Paul is not ignoring his situation. He is not pretending his suffering, or imprisonment don't exist. No, what he's doing is placing these two truths against each other, like two boxers in a ring, or two opposing sports teams. And he's putting them up against each other to show the reader the difference between the two realities. Imprisonment, suffering, death; these are all real things that Paul was either experiencing at that time, or was about to experience. But Paul's confidence; what he knew to be true, was that though he was experiencing these very real and very powerful things, they were absolutely powerless in comparison to the Good News of Jesus Christ. Because the gospel cannot be bound, Paul has the hope and strength to bring the Good News to the dangerous places in the world. He knows that he is going to suffer persecution for evangelizing. But because the word of God is greater than any suffering, Paul can endure anything to do God's will in reaching the lost with the gospel. Brother, sister, what suffering or hardships are weighing you down? What troubles surround you, and make you feel like there's no escape? Maybe it's difficulty at work, in your finances, health, or the state of the world? It can feel like this life is just hopeless. It can feel like

the darkness will overcome the light. But Christian, remember. Remember Jesus Christ rose from the dead, and rules eternally over all creation. There is no greater reality than this! No matter how powerful or hopeless your suffering feels, line it up against the eternal, resurrected Christ. Your suffering on one side, Jesus Christ, risen from the dead on the other. Which reality is greater? Jesus stands victorious, everytime. But what about for the unbeliever? Interestingly, the Resurrection is a guarantee for you, too. But unlike the great comfort that it is for the believer, it is actually a great terror for you. [John 5, verses 22, 23, and 27-29 say, “22 For the Father judges no one, but has given all judgment to the Son, 23 that all may honor the Son, just as they honor the Father. Whoever does not honor the Son does not honor the Father who sent him.” “27 And he has given him authority to execute judgment, because he is the Son of Man. 28 Do not marvel at this, for an hour is coming when all who are in the tombs will hear his voice 29 and come out, those who have done good to the resurrection of life, and those who have done evil to the resurrection of judgment.”](#) Friend, if you continue to deny Jesus, he will deny you in the Resurrection. Your reward will be hell. Verse 12 is a warning for you. Read it slowly, and consider: [“12 if we deny him, he also will deny us”](#). But what does it mean to deny him? To deny Jesus is to deny the reality of the Resurrection, and our need of it. To deny the Resurrection means to reject the fact that Jesus actually did rise from the dead, and that he now rules over all things, especially your life. To deny your need of it means to reject the fact that all of us have rebelled against God, and because of that rebellion, we are all guilty and deserve punishment. It means rejecting your need for Jesus' death in your place, to take the guilt and punishment you deserve, and rejecting his resurrection that allows us to share in Christ's victories, and freedom from our guilt and punishment. And so, you need to stop denying Jesus. You need to believe in the Resurrection. You need to believe in him. Do it, today.

So, the Resurrection is important because it is how Christ won victory over death and was seated as ruler over creation, and how we will share in those rewards. And the Resurrection is relevant to the believer, because it guarantees comfort and strength, but for the unbeliever, it guarantees terror. For our final question, I want to answer: What hope of Resurrection do I have if I am a failure? To do that, let's go back to the “If—will” statements in verses 11-13. So, there's a couple ways to interpret them. The first way is to think of them as conditional. What that means, is that there are conditions, or requirements that need to be accomplished to receive the reward. It'd be like saying, “If you are able to do these things, you will be rewarded; BUT, if you don't do them, you get nothing!” So, that's the first way you could read it; and I think many of us, if we're honest, tend to read it that way. I'd guess that there are many of you who hyperfixate on those [“If we deny him”](#) and [“If we are faithless...”](#) parts, and downplay the other parts. I'm sure that many of you carry around a record of your faithlessness and failures. To others, you affirm that God is the one who justifies us and holds His own in the faith, but secretly, in the back of your mind, you often question if your actions or inactions have caused yourself, or someone else to fall beyond God's reach. These “what if” questions eat at us in the secret places of our hearts. “What if I keep repeating that one sin, over and over?”, “What if I was a better husband or wife to my unbelieving spouse?”, “What if I started disciplining my children when they were younger?”, “What if I had confronted that brother or sister earlier about their sin?” What an impossible burden that is. But let me offer up an alternative reading. The second way to read it is as guarantees, or promises. So, “If these are true, these are also true”. If we go back to

the beginning of verse 11, Paul says, “**11 The saying is trustworthy**”. Notice that he doesn’t call them “conditions”, he calls them “sayings”, or as some translations say “statements”. These are clearly not conditions; These are “trustworthy sayings”. Paul’s intention in this letter is not to make the Christian question their faith, he wants to strengthen, and encourage it. He uses this “If—will” language to express that the resurrection and rule that Christ won, and now shares with us, is guaranteed; It is undeniable. It’s like saying, “True+True=True”. If you have died with Christ, you will be raised to life! If you have endured, you will reign with him! Let’s focus in on the end of the last verse: “**If we are faithless, he remains faithful; for he cannot deny himself**”. So, the reason that Jesus is faithful, is not dependent on you or me, but on himself, and specifically, because he cannot deny himself. Jesus cares about the glory of his own name. He cares about the reward that he deserves. He cares so much so, that it is impossible for him to deny himself what he is due. And what he is due, is us, the elect; our lives, and our worship. And it is because of this jealousy that Christ has for his own reward, that our fate is secure. The reality of our resurrection cannot be denied, for we are eternally his. And Jesus will receive his reward. What a beautiful hope that is for the faithless failure. Brothers and sisters, let’s read that last verse one more time, and let us, together, hide that truth in our hearts. “**If we are faithless, he remains faithful; for he cannot deny himself**”. Remember, the rewards are given to us not because we earned them, but because Christ defeated death, rules over creation, and is sharing the rewards of victory with us. His promises to you, Christian, are sealed, assured, guaranteed because he cannot deny himself. Remember. Remember and rejoice. Let’s pray.